

佳作

人を助けるおじい

長野県 長野県長野商業高等学校一年 竹前 咲良

今年、台風などの影響で、多くの死者や行方不明者が出ました。車や家までも流してしまふほどの雨が降ってしまい、町も土砂で埋め尽くされてしまいました。そのせいで、自分の家や車や大切なもの、思い出の品などすべて流されてしまい、住んでいた場所に帰れない人たちも多くいました。

私は、このニュースを見た時に一番衝撃を受けたのは、水がなくなつた後の各地の風景です。車が普通ではありえないところにのりあげてしまつたり、流されてきた土砂が、家の中や道路の真ん中に散乱していました。

でも、ひどい状況の中で大勢の人がボランティアとして現地で働いていました。例えば、家の中に入り込んでしまつた土砂を土のうに入れて運び出したり、流れてきた木や車を手作業で少しずつ運んだりという仕事です。こんなにも大勢の人が被災してしまつた人を少しでも勇気付けて早く元の生活に戻ってほしいという思いで、遠くても現地に足を運んでいる姿に感動しました。

ほかにもボランティアの人が活躍したニュースがありました。山口県周防大島町で、二歳の子供が行方不明になつたニュースです。何日間も行方が分からなかつた子供を無事に発見したのは、ボランティアに来ていた男性でした。その人は、前にも行方不明になつた子供を探しに行ったことがあつたそうです。そして、その時の経験を生かして、小さい子供なら上のほうに上っていくという知識を生かして見つけることができたと言つたインタビューで答えています。ボランティアに来た人たちは、自分の持っている知識や知恵も使って作業していることが分かります。さらに、ボランティアのすごさを実感しました。これらのニュースを見て、ボランティアの存在は、ただ被災地を少しでも早く復興させるだけでなく、その現地の人に、希望や元気も届けているのだと思ひました。ボランティアの人たちの「助けてい」という気持ちで、これだけ多くの人が、元気づけられていてすごいと思ひました。

ですが、ボランティアに行つた人たちがよく聞くのが、「ボランティアは、すぐくやることが多く、思つていた以上に人手が足りないと思つた」ということです。私には、テレビで見ていると、すぐ大勢の人がやっているように見えるけど、土砂を動かすだけがボランティアの仕事ではなく、水を配る人、倉庫を整理する人、子供たちと遊ぶスペースで一緒に遊ぶ人など、たくさん

仕事があることを調べていくうちに知りました。これは、まだ一部で、これ以上にやることがあると考えると、確かに人手が足りないかもしれないと思いました。もっともっと多くの人たちが、ボランティアの大切さを知って、一度でもいいから、ぜひ現地まで、助けに行ってほしいと思います。何をしたらいいかわからなくても、自分自身が持っている知恵を使えば、どんなことでもできるということが分かったので、私も行ってみたいと思いました。

ボランティアは、誰かにやれと言われたからできるものではなく、すべてを自主的にやらなければいけないのです。それなのに、ここまで多くの人たちが、ほかの人を助けて、少しでも力になりたいと思って、遠くから駆けつけて行ったりする、行動力ややさしさに、たくさん感動をもらいました。「誰一人として、見捨ててはならない」というボランティアをやるうえでのポリシーもすごいと思いました。

私は、その場に行かなければできないとは思いません。少しでもいいから、募金をしてみたり、エコキャップを集めたり、ゴミを拾ったりすることも立派なボランティアだと思います。その場に行けなくても、早く復興して、元気になってほしいという気持ちを忘れないでほしいです。そうすれば、小さなことでも行動を起こすことができ、今よりもっと平和になれると思います。

私も、これからは常にボランティア精神を忘れず、ボランティアに行った人たちのように、人を助けることで誰かに感動を与えられるような人になりたいです。